

ずいひつ



映画は無限の宝庫なり

副会長 仲村 義和

私は今映画にはまっている。そして余暇に映画を見に行くことが、この頃の最高の楽しみのひとつである。

朝一番の映画館は、空気もきれいだし、ポップコーン片手に飲み物を持って真ん中の一番良い席に着ける。映画が始まる直前のあの胸のドキメキは、何ものにも変えがたい。『13デイズ』のキューバ危機をケネディ大統領の苦悩を共に体験し、「ホテル」の高倉健、田中裕子の夫婦愛と人生に涙する。

映画は映画館で见たいものだ。映画とは、非日常の時間と空間を味わうことができる。また、多くの人生を生きることができ。ある時は政治家であり、農夫であり、科学者、はたまた宇宙飛行士等々…。自分の中でもやもやしていたものが、映画の中のセリフが的を得たときは、突き上げるような興奮を覚える。

これからは映画の世界にもものすごいデジタル時代を迎えようとしている。CG(コンピュータグラフィックス)を駆使した映画、スピルバーグ監督の「ジュラシックパーク」を見たときの恐竜のあまりにもリアルな動きや表情に驚愕を覚えた。CGってすごいなと素直に思った。そして「ハムナプトラ」を観に行った後、映画館を出て、何故か空しかった。たしかに映像としては、格段の進歩(?)と思えたのだが、30年前の日本映画「ゴジラ」のようなあの何とも表し難い優しさが伝わってこなかった。

私は、やはり映画もアナログの部分を残してほしいと思う。故黒澤明監督の「7人の侍」「生きる」「夢」等、デジタルを超える映像の世界がアナログにはあると思う。

昨今、子供達の命に対する大切さ云々がマスコミ等で取り上げられているが、故淀川長治の言葉に素晴らしい一言があった。

「子供達に映画をどんどん見せてあげて下さい。

映画は見る人生哲学です。たくさんたくさん映画を見て下さい。さいなら、さいなら、さいなら」

(楠アカリ設計 代表取締役)



(上から：ジュラシックパーク、七人の侍、
千と千尋の神隠し、シンドラーのリスト)



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会